

を
る
の
校
え
域
学
支
地
力
chikara

「地域総がかり」で子どもをばぐむ!

大分県別府市

「作品ができあがるのはとってもうれしいけど、ボランティアの○○さんとはばらくお別れになるのがさびしい」。

家庭科の実習最終日の子ども们的日記です。

「久しぶりの子どもとの交流。かわいらしさと若さと楽しさを感じました。学校にとっても親しみを感じます。できあがった作品を身につけて一緒に撮った写真は私の宝物です」。

ボランティアとして学校支援活動に参加した地域の人の感想です。学校支



別府の伝統工芸「竹細工」—ゲストティーチャー

援活動をとおして、地域における〈心の交流〉が進んでいます。

地域と学校の相互理解を 図る〈きつかけ〉

別府市では、地域と学校が相互の理解を深め、その信頼関係のもとに相互の教育機能を補完し、連携・協働して地域の子どもたちを育てていこうとする「協育」の機運の醸成と「協育」による活動の推進に取り組んでいます。

学校支援活動は、地域の人々が実際に学校を訪れるための〈きつかけ〉の一つと考えています。自分の子どもが学校を卒業してしまう（または就学前である）と、地域の学校とはいえ地域の人にとっては縁遠い存在となり、用事がないのに学校へ行くことには「敷居が高い」感じもあるようです。そこで、学校の要請に基づき、学校から必要とされる地域の人として学校に行ってもらおうのです。活動をとおして、地域の人々が児童生徒や教職員と顔見知りになることは、地域の学校への関心

を高め、ひいては学校の現状や学校が抱える課題等への理解を深めることにつながると考えます。

学校支援活動から広がる地域のネットワークにより、地域や家庭の教育力の回復や地域の連帯感の形成といった大人社会の「再」構築を図ります。また、個々の具体的な活動内容の充実をとおして、より豊かな学校教育の実現を目指します。

あわせて、学校支援活動を恒常的・安定的に実施するため、学校支援ネットワークリーダー（教育コーディネーター）を中心とした活動のシステム化を図ります。

多様な支援活動

本年度は、南小学校・浜脇中学校区（同一校区）と大平山小学校区で、各学校への支援活動に取り組んでいます。各学校から支援の要請があった個別具体の活動について、学校支援ネットワークリーダーが地域のボランティア希望

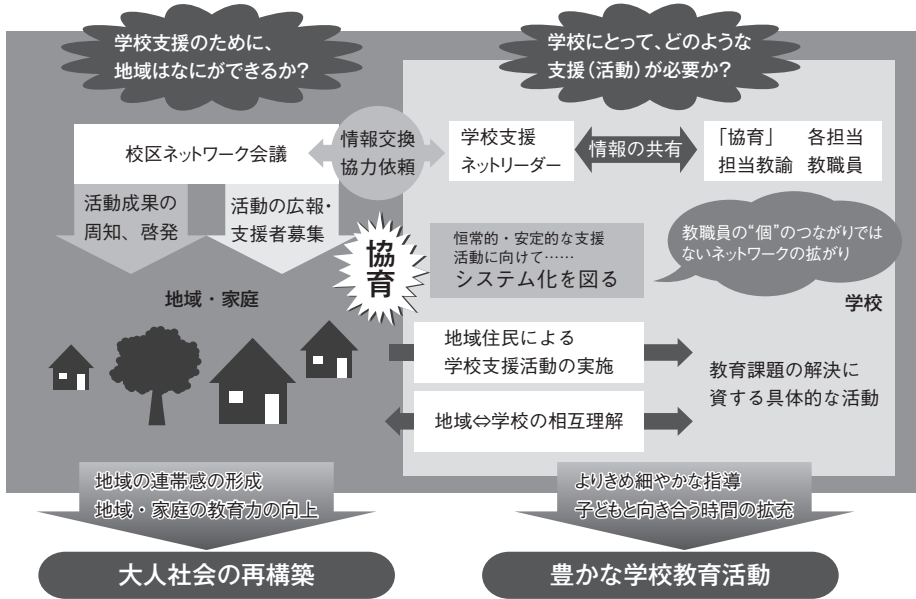


登山遠足（鶴見岳）でのサポート

者と活動のマッチングをします。学校支援ネットワークリーダーの選任は、この事業における重要なポイントです。

昨年度の調査研究の結果から、本市の学校支援活動は、県内の他市町村に比べて学習支援型の活動が多いことが特徴であり、活動による教育効果が教職員の「本事業を肯定する意識」や「児童生徒への期待」につながっているといわれています。学習支援型の活動を中心とすることは、地域の人々が児童生徒と直接かかわりをもってボランティアの楽しさや喜びを体感できる

学校支援活動のイメージ



ことや、児童生徒・学校の教職員が「地域の人々に支えられていること」を強く実感することから、今後この事業を長続きさせるうえでも有効だと考えます。

これまでに取り組んできたおもしろな学校支援活動には、次のようなものがあります。

ります。

南小学校への支援活動

校区探検や地域探検などの校外学習時は、歩行中や乗り物内などの往復途上はもとより目的地でも子どもの安全に気を配ります。必要に応じて地域の

解説をすることもあります。

豊かな学校教育活動

調理実習や裁縫実習（ミシン練習）時には、子どもの進度に応じて個々の作業を補助します。刃物や火などの取り扱いにも気を配ります。針や糸の付け替えなども手伝います。算数や国語の時間に、子どもがならんで持つてくる練習問題プリントに丸つけをします。丸つけをする人が多いと子どもは長い列に並びずすみます。事後指導は先生がします。

このほかに、読み聞かせ活動や図書の補修などの図書館ボランティア、花壇整備ボラ

ンティア、登下校時の安全見守りなどの支援活動を定期的に行っています。

浜脇中学校への支援活動

調理実習や被服実習時の支援活動内容は小学校とほぼ同様ですが、一単元の時間が長い分、支援する期間も長くなります。保育実習時には、乳幼児を連れて授業に参加しました。

総合学習「ものづくり講座」では、生け花・茶道・料理・書道・和太鼓・竹細工の六コースで、約半年間（毎週二時間）ゲストティーチャーによる指導が行われました。

本年度の試みとして、地域の大学生が希望する生徒に対し、おもに数学と英語に関して問題の解き方を指導したり質問に答えたりする「放課後学習」に取り組んでいます。

このほかに、図書館の電算化に伴うラベル貼りや生徒会のアルミ缶回収時の補助などの支援を行っています。

大平山小学校への支援活動

昨年一〇月から本格的に学校支援活動を行っています。活動期間は短いのですが、登山遠足でのサポートをはじめ、校外学習時や調理実習時などの機会に多くの支援活動に取り組んでいます。

す。

活動の成果と今後への課題

大人社会の「再」構築を目指して少しずつですが、確実な手応えとして、地域におけるコミュニケーションの拡がりを感じています。ボランティアとして支援活動に参加する人々の感想はもとより、支援される側の教職員や児童生徒の感想からもそのことが読み取れます。事業の調査結果からも、実際に学校支援活動に携わった人ほど、この取組に対して肯定的な考えを持っていることがわかります。学校支援地域本部事業として実施するかどうかはともかく、「協育」の推進に向けて学校支援活動は重要かつ有意義であるといえそうです。

しかしながら、現時点では、本事業についての市民への広報・周知不足が否めません。対象となっている校区以外では、取組の様子が教職員をはじめとする関係者にもあまり知られていないのが現状です。このことは、社会教育委員の会議等においても指摘されています。学校支援活動のさらなる充実を図っていくために、今後より多くの人々に、学校支援活動の良さと必要性を説いていこうと考えています。

（生涯学習課社会教育主事 武田謙治）